

1 体外式超音波検査を契機に発見された食
2 道 GIST の 1 例

3
4 ○高師紀子 関川由里子 角映里佳 木村豊 中村文隆
5 (帝京大学ちば総合医療センター)

6
7 **【はじめに】**超音波検査は空気に弱く、消化管疾患
8 に対しては腸管ガスが存在し不向きとされてきたが、
9 超音波診断装置の進歩とともに現在では積極的に臨
10 床の場において応用されてきている。今回、超音波
11 検査にて食道腫瘍が疑われ、病理組織学的に GIST
12 であった症例を経験したので報告する。

13 **【症例】**54 歳女性。頸部皮下腫瘍を主訴に当院皮膚
14 科を受診、精査目的で超音波検査を施行したところ、
15 食道腫瘍が疑われ、内科精査入院となった。

16 **【検査所見】**
17 超音波:腫瘍自覚部位にはリンパ節腫脹がみられた。
18 甲状腺左葉背側に低エコー腫瘍が認められ、腫瘍は
19 食道固有筋層に連続して気管側へ突出していた。
20 内視鏡:門歯より 20cm に隆起性病変、粘膜面はほぼ
21 正常で、SMT 様圧排像が認められた。
22 超音波内視鏡:壁外にほぼ均一な低エコー腫瘍が認
23 められ、エコーレベルは筋層と同等で、内腔への浸
24 潤はみられなかった。

25 CT:頸部から胸部上部食道右側に辺縁平滑な充実性
26 腫瘍が認められ、腫瘍により食道は弧状に圧排進展、
27 甲状腺や気管にも接し、境界は不明瞭であった。

28 **【経過】**精査の結果、食道壁外性 GIST の疑いと診断。
29 大きさより悪性病変の可能性もあるため、手術が施
30 行された。病理組織学的には GIST で、悪性所見は認
31 められなかった。

32 **【まとめ】**GIST は内視鏡ないし消化管造影検査で発
33 見されることが多いが、今回の症例は腫瘍径が大き
34 く、頸部食道に存在していたため、体外式超音波検
35 査は有用であった。日常検査において消化管疾患に
36 由来する訴えは多く、消化管超音波検査の需要が高
37 くなってきている。消化管疾患の知識を深め、技術
38 向上に努めていきたいと思う。